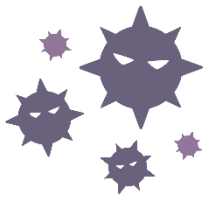
保険代理店のひとりごと

～気を付けよう!!インフルエンザ～

Vol.25
2026

今年のインフルエンザはいつもと違う!?



例年は冬に流行を迎えるインフルエンザが、今年は例年より早いペースで流行しています。
前年の同じ時期と比べ**約7倍**と急増しているようです。
今年の特徴は、**8月下旬という異例の早さ**で全国的な流行が見られていることです。
「冬の感染症」という従来のイメージが通用しない状況となっています。
また、インフルエンザには複数種類の型が存在するため現在のA型による流行が落ち着いた後も、
冬から春にかけて別のA型やB型による「第２の流行ピーク」がやってくる可能性もあるとされています。

インフルエンザの主な症状・治療薬

次の症状がある場合はインフルエンザの可能性があります。早めに医療機関を受診しましょう。

- ●38℃以上の急な発熱
- ●強い頭痛
- ●悪寒・倦怠感・関節痛などの強い全身症状
- ●咳やのどの痛み



日本では主に５種類の抗インフルエンザ薬が使用されています。
これらの薬は、発症から**48時間以内**に服用することで重症化予防の効果が高まるとされています。

タミフル	ゾフルーザ	リレンザ	イナビル	ラピアクタ
・内服薬 ・1日2回5日間 ・小児から高齢者まで幅広く使用	・内服薬 ・**1回飲み切り終了** ・利便性が高い ・近年よく処方される傾向	・吸入薬 ・1日2回5日間 ・選択される機会は他と比べやや少なめ	・吸入薬 ・**1回吸入で終了** ・吸入が上手にできることが前提 ・飲み忘れがない	・点滴薬 ・外来では第一選択になる事は少ない ・入院患者や重症例向け

自分でできる予防法

インフルエンザは毎年多くの人に感染が広がる身近な感染症ですが、
正しい知識と行動でそのリスクを大きく減らすことができます。

- ●こまめな手洗い・うがい・アルコール消毒
- ●マスクの着用
- ●室内の加湿・換気
- ●十分な睡眠とバランスのよい食事
- ●ワクチン予防接種（ワクチンの効果は約2週間で現れ、約5か月有効）



発熱や全身倦怠感などの症状があるときは、無理をせず早めに休養を取り、医療機関を受診しましょう。
特に高齢者や基礎疾患のある方は重症化しやすいため、早期受診と適切な治療が大切です。
また、ワクチン接種や手洗い、マスクの着用、加湿・換気などの基本的な感染対策を続けることは、
自分だけでなく周囲の人を感染から守ることにつながります。
食欲の秋真っ盛り！おいしいものをしっかり食べてウイルスに負けない身体作りも頑張りましょう